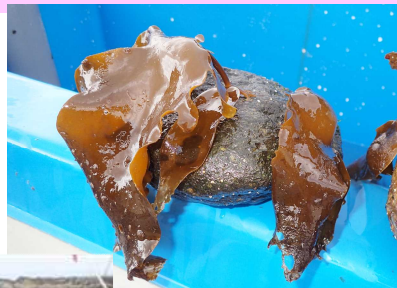


令和4年7月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

漁業者との協働による藻場造成の取組

黒潮大蛇行が2017年夏に発生して以来、伊豆半島でカジメの磯焼けや藻場の衰退、アワビ、サザエの痩せ貝が顕著になっています。当分場では海藻種苗を熱海市伊豆山地区、下田市須崎地区、南伊豆町下流地区に提供し、漁業者が磯焼け対策を実施しました。

伊豆山地区にはカジメの胞子を石に着生させて養成したものを提供し、素潜り漁業者が潜水して港内に設置しました。下流地区には育成したアカモク母藻を供給し、スポアバッグとして投入してもらいました。須崎地区には建築ブロックに着生させたカジメを供給し、漁業者が港内に設置しました。



← 伊豆山地区に提供したカジメを養成した石

アカモクスポアバッグ →

← 須崎地区での作業



解説：スポアバッグ：成熟した海藻を母藻として設置し、そこから供給される胞子や種によって、藻場を造成する手法。写真のスポアバッグは網のなかにアカモクの母藻が入っている。

煙火講習会に100人以上が参加

近年、針にかかったキンメダイがサメ等の食害生物に食べられてしまう「食害」が大きな問題となっています。昨年度は伊東地区で音と振動で食害生物を追い払う「煙火」の導入を行い、一定の効果が確認されました。そこで、今年度は下田市や東伊豆町、南伊豆町等の漁業者で組織する「賀茂船主組合連絡協議会」が下田市で講師を招き、煙火を使用するために必要である講習会を開催しました。当日は東京都神津島の漁業者も含めて計114人もの参加がありました。食害対策の新しいツールをうまく活用し、被害が軽減することを期待します。



↑ 講習会の様子



↑ 煙火

園児たちが分場施設を見学

伊豆分場には、この時期市内の園児たちが見学に来場します。6月10日には下田認定こども園の園児34名、6月13日には下田保育所の園児18名が来場しました。園児たちは展示室で職員の説明を聞いて、漁業の模型や海藻・えび類かに類の標本を見学した後、生きたサザエを触ったり、屋外の円形水槽を泳いでいるマダイ、ブリ、イサキ、メジナたちにエサやりをし、とても楽しんでいました。

この見学を通じて、園児たちが伊豆の漁業に少しでも興味を持ってくれればと思います。



↑ 展示室での職員の説明

7月の予定 ●カタクチイワシ・ウルメイワシ太平洋系群担当者会議（14日）●賀茂地区幹部職員が伊豆分場を視察（21日）●キンメダイの人工ふ化・仔魚飼育試験 ●調査船駿河丸によるキンメダイ親魚採捕調査（25～26日）●太平洋長期漁海況予報会議（27～28日）●伊豆各地で中間育成したマダイを沿岸域に放流

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。